

## 金融制度改革が目指したもの

作新学院大学 箕輪重則

1993年から実施された金融制度改革は、長期間にわたる審議と膨大なエネルギーを費やしたにもかかわらず、中途半端な改革、臆病な改革、水争い、業態間の利害調整の産物といったマイナスの評価が定着している。

一方、その後開始された金融ビッグバンは、金融持株会社の解禁など懸案事項を次々と実現させ、最近の大規模な金融再編の引き金となったことから、極めて高い評価が与えられている。

しかし、そうした評価は正しいものであろうか。金融制度改革が本当に目指したものは何であったのか、をもう一度再検討し、金融制度改革の再評価を試みたい。

### 1. 業態間の取扱いの差異

金融制度改革の最大のポイントは、銀行業、証券業、信託業の間で、業態別子会社方式によって相互参入を認めた点にある。この業態別子会社の設立を始め、改革の内容を注意深くみると、長期信用銀行と外国為替専門銀行の2業態が、次の点で他の業態よりも有利な取扱いを受けていることがわかる。

業態別子会社の設立において、自らは他の業態に進出できるのに、他の業態からは進出を受けない。

合併・転換法の改正においても、他の業態がこの2業態に進出することは認められていない。

業態別子会社の設立において、この2業態の銀行はいずれも優先的に設立を認められた。

### 2. 金融制度改革が目指したもの

表面的にはこの2業態が他よりも優遇されているように見える。しかし実際には優遇されているわけではない。なぜなら業態別子会社が設立されなかったことなど他から進出を受けないということは、短期的には有利であっても、中長期的にみれば業態としての存立基盤の弱体化を意味するからである。

このことを考えると、金融制度改革が本当に目指したものは次の2点であったといえる。

戦後の金融制度の構築の過程で細分化された金融業を機能別に再編成し、銀行業、証券業、信託業の3つに集約する。

銀行業内部における専門銀行制度（長期信用銀行と外国為替専門銀行）は、中長期的には普通銀行との合併あるいは転換により縮小ないしは廃止の方向を目指す。

金融制度改革以降、外国為替専門銀行は普通銀行との合併により消滅し、長期信用銀行のうち2行が特別公的管理となった。これらのことは、金融制度改革が目指したものが実現しつつあるといえる。

金融制度改革をこのように理解すると、まさに金融制度改革こそが、戦後の日本の金融史におけるターニングポイントであり、極めて重要な改革と位置づけることができる。

〔参考文献〕

拙稿「金融制度改革と金融ビッグバンの意義」(「作新経営論集」第9号、2000年3月)

〔討論者コメント〕静岡県立大学 小谷野俊夫氏

報告者の主張のポイントは、金融制度改革の内容の再検討、その後の外国為替専門銀行の消滅や長期信用銀行2行の国有化などを踏まえて、金融制度改革を金融業の再編を目指した重要な改革と位置づけたことである。

しかし、当時の金融制度改革の議論において、果してそのような明確なビジョンが描かれた改革であったのか疑問である。またその後の推移も、不良債権問題の発生など経済金融環境の変化による影響の方が大きかったのではないか。

(回答)確かに、当時の議論において明確なビジョンとして打ち出されたわけではないが、それは、特定の業態を将来縮小ないしは廃止するという方針をオープンに議論できなかったためである。金融経済環境の変化は、結果的には金融制度改革の実現を促進する効果を持ったが、金融制度改革の実施と不良債権問題の発生がたまたま重なったという面が強いと思う。

〔フロアーからの質問〕

(質問)名古屋商科大学 村井睦男氏

金融ビッグバンが想定しているものは、金融業の機能に着目した改革というよりも、それらの機能がすべて解放された後に現れる「金融サービス全般」と考えられる。その視点から金融ビッグバンを評価すべき。

(回答)金融ビッグバンのもとで、金融持株会社による相互参入が図られたが、銀行業、信託業、証券業、保険業という機能的分業の側面は基本的には存続されたと思う。

(質問)早稲田大学 北村歳治氏

金融制度改革では、業態間の調整という面が強かった点は無視できない。欧米諸国の例をみても、今後とも何らかの形で業態間調整の要素は残るはず。

金融制度改革は、銀行を中心とした改革が中心であったが、金融ビッグバンは証券市場、外為制度、会計制度に重点を移した改革であり、次元を異にするものである。

(回答)

いつの時代でも、どのような改革であっても、既存の秩序への配慮は無視できないし、その点はこれからも変わらないと思う。ただし、そうした点を捉えて改革を低く評価するのではなく、より本質的なものを的確に捉えて改革を評価すべきだと思う。

会計制度は新規の改革という面が強いが、証券市場・外為問題の改革は、従来からの規制緩和の流れに沿ったものである。金融制度改革と金融ビッグバンは全体としてはむしろ連続性の側面が強いものだと思う。